

第2回各務原市特別支援学校建設基本構想・基本計画策定委員会 議事概要

日 時 令和2年8月17日（月）午後1時30分より
 場 所 各務原市役所 産業文化センター2階第3会議室
 出席委員 出口和宏委員長、松村齋副委員長、田代真理子委員、安田ゆかり委員、
 加藤英優委員、関エリコ委員、大谷弘委員、安田寿之委員、
 木全かおり委員、兒玉哲也委員
 欠席委員 なし

1. 委員長挨拶

2. 議事

①保護者アンケートの実施について

②候補地の選定方針について

議事録（要旨）

議事 ①保護者アンケートの実施について

資料1 アンケートの対象者及び回答用紙

事務局説明	
・特別支援学校のニーズ把握に向けて実施するアンケートの趣旨、対象者、実施スケジュール、内容について説明した。	
主な意見及び質疑応答	
委員	アンケートを実施する効果として、該当する方全てに配布されて、実際に作っていくということが伝わって良かったと思う。
委員	一般の小中学校の特別支援学級に通っている方まで、幅広く意見が聞けるのは良かった。
委員	アンケートを取ることで、新たな学校ができる期待感が大きくなっているのではないかと思う。

議事 ②候補地の選定方針について

資料2 候補地の選定方針について（案）

事務局説明	
・候補地4エリアの検討にあたり、検討条件、選定基準、比較検討表について説明した。	
主な意見及び質疑応答	
委員	以前に自身が関わった特別支援学校で、小中高一貫として整備された際

	に、保護者から高等部は独立していた方が良いという意見もあったが、本市で小中学部と高等部を一貫として整備する場合、高等部の生徒の社会的自立に対して、保護者の方の意見はどうか知りたい。 対象とする障がい種別を知的障がい、肢体不自由、病弱者とした場合、大学進学の子も受け入れることになるか。また、県立羽島特別支援学校と同様となり、肢体不自由なら関特別支援学校、病弱なら長良特別支援学校など、県立との線引き、住み分けはどうか。 新たな特別支援学校ができることで、保護者にとって選択肢が増えることになるが、市の特別支援学校としての魅力を出して選ばれるようにしていかななくてはならないため、市の特性をどのように考えるか。
委員	保護者の立場としては近くに学校ができるのは有難い。高等部と一緒にすることについて、現在の高等部の場所は利便性が良い。
委員	これまで市内に重度の障がいを受け入れる施設はなく、市外の施設に通っていた。重度の方ほど市内の支援学校に通えると良いという思いがある。以前は、成人になっても市内に重度の方を受け入れる施設はなかった。小中の特別支援学校ができることで、重度の方も初めて市内に通うことができる。重度の方は小中高一貫の方が良いと思うが、軽度の方は自立という部分で考えると分ける方が意識付けという面では良いかもしれないが、場所を分けるだけが教育ではなく、そういった教育が担保できれば良いと思う。重度の方がこれから増えていく中で、高等部だけ独立して現状の各務原特別支援学校で対応できるのかという不安がある。少子化でも障がい児は増えている。同じ施設にするのであれば、どういう形で教育を進めるかが一番重要である。
委員長	一貫性を担保することは子どもたちの成長のためにも非常に良い。障がい種別についてはどうか。
委員	県では基本方針として、地域化、一貫化、総合化、センター化を目指しており、岐阜市内だけ専門性を担保するという観点で単一障がいの学校（コアスクール）を残しているが、基本は総合化ということで知・肢・病を受け入れる。小学部の小さな子がいることが、高等部の子は面倒を見たり、関わっていくことで良い影響が見られる。総合化ということで、病弱の子もいるため、大学を目指す子もいるが、お互いを認め合う中で肢体不自由のいわゆる準ずる教育を受けている生徒と軽度知的障がいの生徒が一緒になって学校生活を送る中で、経験上、そういった面で懸念はいらんと思っています。

	各務原は、元々は関や中濃が通学区域になっていたが、結局、肢・病をつくらないと、どこにいくのかということで、市立をつくるのであれば、やはり障がいの重い子こそ市の方で受け入れるのが基本になるのではないかと思う。
副委員長	魅力ということは何だろうということだが、今の議題では立地について検討しているということで、教育の中身については、また後日、お話をさせていただければと思う。 端的に、魅力というのは教育の中身だと思う。新たにつくる特別支援学校が、皆さんが入学して良かった、友達に会えて良かった、先生たちに会えて良かったと思えることが魅力につながっていくのではないか。 今回の比較検討にある防災性を含む色々な要素は、その魅力を俯瞰している条件だと考えられるため、魅力そのものを委員の皆様方から意見を述べていただけると良い。
委員	長良特別支援学校など単一で残しているところは、市町が相談を受けて、県の方としては、保護者が主体的に選ばれて来る。各務原ができれば保護者の選択肢が増えるという意味で、それぞれの専門のところが選べるし、各務原も選べる。県の施設として、大学受験も含めた教育課程に対応した設備も持っているというイメージか。
委員	市立として知・肢・病としてくださいということではないが、県としてこういう整備をして、色々課題はあるが、子どもたちがちゃんと育っているというお話をした。 岐阜市立岐阜特別支援学校は知的障がいだけのため、医療的ケアが必要な子はいない。そういった子は希望ヶ丘とか長良に行っている。ここは岐阜市と近接しているため、今は選べるところもあるが、東濃や加茂は地区に一つしかないため選べない。地区割をしているため、地区外には行けない状況にある。各務原市が障がい種別をどうするかによって、今後、県を含めて校区を見直さないといけないということは想定される。
事務局	保護者アンケートの回収が完了していないため、8月中に取りまとめて保護者からのご意見を汲み取りたいと思う。 選ばれる学校については、本市在住で200名を超える児童生徒が特別支援教育を受けるべき判定がされているが、現在は高等部しかない各務原市の特別支援学校に49名が通っている。新たに作られた学校をしっかりと選んでいただける学校に、皆さんの意見を参考にしながら進めていきたいと思う。

委員長	候補地の比較検討について、一人ずつ簡単に意見を伺いたい。
委員	4つの地域の立地条件について、B、C、Dいずれのエリアでも防災性の観点で評価が「△」、配点が「0」になっているところがあり、例えば浸水でそこに池があることは知っているが、実際に配点0となるような被害を及ぼすか、もう少し具体的に教えてもらえないか。
事務局	ハザードマップに該当するかどうかという「△」か「◎」かの2択の評価をしている。例えばBエリアのため池では、大震災でため池の堰堤が崩れて、水が流れ出して、50 cmぐらい水がつく可能性があるというようなハザードマップである。影響はかなり限定的というイメージは持っているが、今回の評価の中ではハザードマップに載っているか、載っていないかということだけで評価している。ハザードマップの基となった資料を見て、もう少し踏み込んで調べる必要がある。 土砂災害危険区域ありということも同じようなことで、沢筋があると土砂災害危険溪流ということになって、そこからどれくらいの水が、どれくらいの範囲のところにまで出ていく可能性があるということを示しているのがハザードマップである。Bエリアはハザードマップの扇型の末端にあり、鶴沼中学校などは結構真ん中の方にある。詳細な資料を調査して、次回報告することは可能である。 今回の中で、Dエリアの水深2～5 mとなると、対策は難しいと思うが、数 10 cmであれば、造成の仕方などで影響がない形にできる可能性がある。
委員長	次回、そのような報告をお願いします。
委員	現在の各務原特別支援学校は、非常に交通の便が良く、緑の中にあって、学校が出来て、それから住宅が建ってきたというような状況である。 候補地の中で、一番怖いのは安全面である。現在のところも避難訓練でグラウンドの方へ出るものの、消防からは煙が来るところのため、適切でないと言われているが、集まれる場所が他にない。また、坂の下にあり、玄関の前が水没するため、土のうを積んで対応している。 新しく作るときに学校だけが安全な場所にあっても迎えに来てもらえない場所では困る。学校だけが安全な場所であり、周囲が浸水していたら、宿泊施設も無いため、やはり利便性があって、市民の人たちが生活している場所の中に学校ができれば良い。 また、中身についてはこれからだと思うが、学校から飛び出していく子もいるので、今は学びの森の方に走っていくので良いが、裏に山があっ

	たら困るなと思う。安全が確保できる場所をお願いしたい。
委員	災害時に保護者が迎えに行くことを考えると、学校に留め置きになった場合に、保護者も安全に行き来できるようそこまでの道が確保されている必要もある。迎えに行くことが出来ない状況になったときに、福祉避難所としての機能があると良い。
委員	福祉避難所は市内にあるようで無い。そういった機能を学校として整えることが大切だと思っている。 Aエリアの雑種地であり埋設物の調査が必要というのはどういう意味合いか。それから、合意形成が難しいということで地元の関係だと思うが、住民の理解形成ということであれば、地域理解の活動をしているため、お話をすることも可能である。 4案示されている比較の候補の中に那加地区が含まれていないが、候補地としてあるのであれば、候補に含めて検討した方が良い。市役所の近くにあるといいという意見があり、最初から除外する形は好ましくないと考える。
事務局	那加地区には既存の高等部があるが、小中も併せ持った新たな特別支援学校をつくらうとした場合、学びの森をつぶしての拡張は難しい。学びの森も別途、市民公園と繋ぐ賑わい創出のパークＰＦＩ事業により、活用の方向性がある。公園も重要な市の施設として守っていく必要があり、既存の敷地の拡張が無い状態で、那加地区内には適地が見当たらなかったため、候補地には含めていないが、あらかじめ市内部として検討はしているという状況である。
委員長	雑種地云々というのはどういうことか。
事務局	実際に土壌調査を行っているわけではなく、候補地選定の段階で地質調査を行う予定がないため、一般論としての評価としている。農地として使われているのであれば、有害物質は含まれていないだろうと考え、比較して雑種地であれば、可能性はあるという評価をしている。実際に何かが出てきているわけではない。 地権者との合意形成も一般論で書いていて、全ての候補地が市街化調整区域であるものの、市街地に近いということと、何かに使いたいということがあれば難航する可能性がある。また、必要な３ヘクタールを取ろうとすると建物にかかると、建物の補償や移転交渉など問題が出る可能性があるため、建物が全く無い場合と比べるとマイナス要素があるとい

	うことでである。他の３地区については農業振興地域であり、農業を継続したいため売りたいという可能性はあるが、そうでなければ比較的用地取得は進みやすいということで差をつけている。
委員	防災は重視したいと思うが、そのような影響が少ないのであれば、そのような書き方をし、防災性を重視した場所に作って欲しい。
委員	立地については、防災性で安全な基盤がある所に、避難所とし活用でき、病弱児とか障がい者のための安全な生活の場所になると思う。 自立を促すために公共交通機関があるのは非常に魅力的であるが、送り迎えをせざるを得ないお子さんもいるため、鵜沼地区は魅力的だが、朝の渋滞などあり、乗り降りの際に学校周辺で渋滞が起こらないような検討も必要だと思う。 Dエリアも工場があつて、朝の渋滞が起きるが、鵜沼地区については、今後どのように変わっていくのか、今の特別支援学校の方にも民家が増えたということで、将来性の見通しを立てる必要もある。
委員	防災性については皆さんと同様だが、前回AエリアとBエリアを見させてもらい、どちらも良い場所だと思った。Aエリアは小中学校も近くにあり良い場所だと思ったが、地形的に北へ向かって下がっていく高低差があるのが気になった。障がいの重い子どもも通学する状況を踏まえると、基本的になるべくフラットな造りでフラットな土地が望ましい。
委員	実際に特別支援学校だと搜索をする。安全に建てても怖いのは線路のため、Cエリアの線路の近くは避けたい。
副委員長	皆さん防災性というところで指摘されているが、俯瞰的に見た中で指針の校地計画の中の防災性とその他の項目が並列かどうか。得点化するときにはその重み付けをどう考えていくかが重要だと思う。今後、詳細な資料を出されるということで、現地、場所、資料、委員から出た意見を総合的に評価していく必要がある。
委員長	本日、決めてしまうことでは無いため、持ち帰っていただき、俯瞰的に見ていただいて、意見があれば出していただき、アンケートの結果や詳細な資料を加えて候補地を絞り込んで、最終的に決めていきたい。

3. その他

(委員長) 次回は、候補地選定の議論を進めるとともに、アンケートの結果を確認しながら、施設の機能や規模といった議論にも入っていく。

(事務局) 次回の委員会については、9月8日の火曜日に、本日と同じ13時30分から開催する。

新型コロナウイルス感染症の拡大状況によってはWEB会議での開催も検討するが、基本的には本日のようにしっかりと対策をした上で、集まって会議を開催したいと考えている。